

- トラック運送事業者の約99%が経営基盤の脆弱な中小事業者であり、**新規投資の余力がなく、経営環境が厳しい状況。**

※また、有効求人倍率は全産業平均に比べ、約2倍である（トラック運転手：2.89、全職業：1.45）など人手不足も大きな問題。

- このため、トラック運送業については、**労働生産性の向上を図り、持続的な経営の確保を図ることが喫緊の課題**となっていることから、**荷役作業等の効率化に資する機器の導入**に対して支援を実施することにより、トラック運送業における**中小企業の経営環境の改善**への取り組みを推進。

【1運行あたりの荷役時間】

平均  
拘束時間



1運行当たり平均して、2時間44分の荷役時間が発生している。

出典：トラック輸送状況の実態調査

## 事業概要

補助事業：労働生産性の向上・多様な人材の確保に資する機器の導入補助（補助率：通常機器価格の1/6）

### ○対象機器の例

#### ・テールゲートリフター



- カゴ台車による荷役が可能となるため、**荷役時間が1/3程度に短縮。**

- 手荷役による重労働が軽減され、女性等の**多様な人材の確保に繋がる。**

#### ・トラック搭載型クレーン



- 建築資材等の重量物や高低差のある現場など、手荷役による作業が困難な場面で効果的。
- 手荷役ではなくクレーンによる積み卸しが可能となることで、**荷役時間を1/3程度に短縮可能。**

#### ・トラック搭載用2段積みデッキ



- 荷物を2段積みすることが可能となるため、**約2倍の積載量が実現され、生産性向上に繋がる。**



## 効果

荷役作業の効率化等を図ることによって、**労働生産性を向上させ、持続的な経営の確保**を図る。